

和歌山病院での実習を終えて



酒見 大輝

7月10~11日にかけて和歌山病院にて実習させていただきました。以前にも別の実習でお世話になったことがあり、近辺は空気が澄んでいて夜には星がとてもきれいな記憶が残っていました。「病は気から」とも言うように、それだけで病も軽くなってしまうのではないかと感じたことは鮮明に覚えています。

今回の実習では、結核病床が存在する病院ということもあり結核についてと、南方先生からは胸部 Xp について学ばせていただきました。結核に関しては、感染経路は空気感染のみという知識はあっても、やはり飛沫感染や接触感染もしてしまうのではないかという素人的なイメージを持っていたのですが、何故空気感染のみなのか、その仕組みから教えていただいたことで、しっかりとしたイメージを持つことができるようになりました。

南方先生による胸部 Xp に関する講義では、そもそも何故 Xp で（境界）線ができるのか、という根本的な内容から考えていくことにより、以前よりも遥かに Xp に対する苦手意識が払拭されました。今回学ばせていただいたことを踏まえて、3 内の担当症例を始めこれから診る Xp も吟味していきたいと思います。

（オンコロ体操のおかげで肺の区域も一生忘れないと思います。）

また、南方先生が連れて行って下さった1日目の夕食時には、先生の様々な分野での博識さに驚くばかりでした。また、数年前から今日に至るまでの実習に来た学生のことをほとんどと言っていいほど覚えておられ、教育に対する思いにも感銘を受けました。先生が度々仰っていた「良い医師になりなさい」という言葉は、人によって解釈は様々だと思いますが、私自身の中でも噛み砕いて、考えていこうと思います。

最後になりますが、南方先生、駿田先生を始め、関わってくださったスタッフの方々に感謝の意を表します。ありがとうございました。